社会科における思考力・判断力の育成と評価に関する考察

社会科　佐々木　善　子

目　　次

Ⅰ　はじめに……12
Ⅱ　公民的分野における「社会的な思考・判断」の指導・評価の実際（2004年度の実践から）…13
　1．公民的分野の学習評価表にみる「社会的な思考・判断」……13
　2．「社会的な思考・判断」の評価の場面と方法……15
　3．レポート……15
　(1)「平和主義を考える」の指導計画とレポートの位置づけ……16
　(2)「地球社会と私たち」の指導計画とレポートの位置づけ……18
　4．定期テストにおける自由記述問題……20
Ⅲ　「社会的な思考・判断」の評価の仕方に関する検討課題……21
　1．「習熟の程度」という視点……22
　2．「一般的な評価基準表（ルーブリック）」作成の必要性……22
　3．生徒のノートの評価……23
Ⅳ　最 後 に……24

要　　旨

観点別学習状況の４観点のうち，とりわけ，自ら学び自ら考える力などの「生きる力」，知識や技能に加え思考力・判断力・表現力などまでを含む「確かな学力」の核心をなすともいえる「思考・判断」の評価が最も難しいと思われている。本校の社会科では，義務教育最後の学年で学習する公民的分野の学習においては，その「思考・判断」に最も重きをおいて評価することにしている。当然，思考力・判断力をいかにして育成し，どのように適切に評価するかが問題となってくる。

本稿では，2004年度の第３学年で実施した公民的分野の指導内容をもとに，思考力・判断力の育成の視点から「社会的な思考・判断」の観点別学習状況の評価の仕方を考察した。特に，実際の評価において最重視した「生徒の考えを記述させたレポート」と「定期テストでの自由記述問題」が指導内容との関連でどのように位置づけられていたかを整理し，多面的・多角的に考察する場や方法，公正に判断する機会をいかに設定したかを振り返った。その上で，「社会的な思考・判断」の育成と評価の仕方に関して，今後検討すべきいくつかの課題をあげた。

Ⅰ　はじめに

新学習指導要領のもととなった中央教育審議会の答申（平成８年７月）や教育課程審議会の答申（平成10年７月）では，自ら学び自ら考える力などの「生きる力」の育成が基本的なねらいであると強調された。また，中央教育審議会「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について（答申）」（平成15年10月）は，新学習指導要領の基本的なねらいは「生きる力」の育成であることを前提とした上で，まずはその「生きる力」を知の側面からとらえた「確かな学力」の確実な育成を進めるべきとの考え方を示した。この「確かな学力」とは，「知識や技能に加え，思考力・判断力・表現力などまでを含むもの」で，「知識や技能に加えて，学ぶ意欲や，自分で課題を見つけ，自ら学び，主体的に判断し，行動し，よりよく問題を解決する資質や能力等までを含めたもの」と説明されている。

さて，このような「生きる力」「確かな学力」の育成をめざす上で，それらがどこまではぐくまれているのか，その到達度を把握する評価が重要であることはいうまでもない。教育課程審議会「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について（答申）」（平成12年12月）では，これから求められる学力について，自ら学び自ら考える力などの「生きる力」がはぐくまれているかどうかによってとらえることが必要であるとされた。そして，学習指導要領が示す目標に照らしてその実現状況を見る「目標に準拠した評価」を一層重視し，観点別学習状況の評価を基本として，生徒の学習の到達度を適切に評価していくことが重要だとされたわけである。

では，「生きる力」「確かな学力」の育成において，中学校社会科はどのような資質や能力等の育成を担っているのだろうか。また，中学校社会科では，それらの資質や能力等をどのように評価すべきなのだろうか。

中学校社会科がその育成を担っている資質や能力は，新学習指導要領における教科の目標に示されている。中学校社会科の目標は，次の通りである。

> 広い視野に立って，社会に対する関心を高め，諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し，我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め，公民としての基礎的教養を培い，国際社会に生きる民主的，平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。　　（アンダーライン部分が今回新しく付加された改訂部分）

アンダーライン部分のうち，「社会に対する・・・多面的・多角的に考察し」の部分は，学習課程を大切にし問題解決的な能力育成を重視するという観点から新しく付け加えられた部分である。また，この目標の改訂に関しては，「目標と指導と評価の一体化をさらに推進する目的を持って改訂されたと読み取ることができる」という指摘がある。[注1)] すなわち，社会科の評価の４つの観点のうち，「社会的事象への関心・意欲・態度」「社会的な思考・判断」「資料活用の

技能・表現」という３つの観点にそれぞれ対応する内容が，アンダーライン部分として社会科の目標に新しく付加されたことにより，評価との整合性が一層図られたというのである。

これらのことを踏まえるなら，社会科の学習において「国際社会に生きる民主的，平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎」がどれだけはぐくまれたかは，「社会的事象についての知識・理解」だけではなく，その他の３つの観点別学習状況をも通して，４つの観点を関連させ合って適切に評価すべきであるといえる。

しかしながら，観点別学習状況の４つの観点のうち「知識・理解」以外の３つの観点の評価に関しては，どのようにすれば適切に評価できるのか大きな検討課題となってきたことも事実である。とりわけ，自ら学び自ら考える力などの「生きる力」，知識や技能に加え思考力・判断力・表現力などまでを含む「確かな学力」の核心をなすともいえる「思考・判断」の評価が最も難しいと思われていることは無視できない。[注2)] また，「思考・判断」は「知識・理解」や「資料活用」の観点と密接に関連しており，「思考・判断」だけを取り出して評価することは難しく，評価するためには工夫が必要であるという問題もある。[注3)]

本校の社会科では，学習を通して身につけさせたい力を，３分野それぞれにおいて４つの観点別ごとに表にまとめている。そして，公民的分野を学習する第３学年は，義務教育最後の学年であることも意識して，４つの観点のうち「社会的な思考・判断」に最も重きをおいて評価することにしている。社会を担う一員として必要な公民的資質の基礎を養い，社会に積極的に参加しようとする意志を持つことを目標としている社会科の学習においては，社会を多面的・多角的に考察し自分自身で公正に判断する力を身につけさせることがとりわけ重要だと考えるからである。当然，社会的な思考力・判断力をいかにして育成し，またどのように適切に評価するかが問題となってくる。

本稿では，2004年度の第３学年で実施した公民的分野の指導内容をもとに，思考力・判断力の育成の視点から，「社会的な思考・判断」の観点別学習状況の評価の仕方を考察した。そして，その考察結果から見えてきたいくつかの検討課題をあげ，今後の学習指導に生かすとともに，より一層適切に評価を行うための材料にしていきたい。

Ⅱ　公民的分野における「社会的な思考・判断」の指導・評価の実際（2004年度の実践から）

１．公民的分野の学習評価表にみる「社会的な思考・判断」

本校社会科では，年に４回（前後期末，および夏・冬期休業前），単元ごとの学習目標を４つの観点別に明記し，それぞれの達成状況を示した「社会科個人評価表」を出している。次に示すのは，2004年度の第３学年で使用した公民的分野の個人評価表の一覧である（**資料Ⅰ**）。評価表中の４観点ごとの各項目は，学習指導計画における各単元の評価規準を実際の指導内容に合

わせて作成したものである。

資料Ⅰ「2004年度社会科公民的分野の個人評価表一覧」

2004年度　第3学年　社会科個人評価表

◎評価の観点 評価に使ったもの 単元	◎関心・意欲・態度 授業観察、発言、ノートへの記述、戦争や平和主義に関するレポート等の提出状況、テストでの憲法第9条	◎社会的な思考・判断 授業観察、発言、プリントやレポート、テストの記述	◎資料活用の技能・表現 資料等の読みとり、テストの記述、ノートやプリント、レポートの記述、夏休みの課題	◎知識・理解 発言、プリントへの記入状況、テスト（特に基本問題や内容理解の問題ができた。）
人権尊重と日本国憲法 ①個人と社会生活 ②日本国憲法の基本原理 ③人権と共生社会 ④平和主義を考える	・憲法への関心が高まった。 ・基本的人権について考える学習に積極的に参加できた。また、現代社会や自分の身の回りにある差別や人権問題について意欲的に知ろうとした。 ・憲法の3つの基本原則を中心に、人間の尊重や平和主義について意欲的に考えた。 ・憲法第9条を一生懸命おぼえた。 a　b　c	・憲法に基づく政治により国民の自由と権利が守られ民主政治が行われるということ、および憲法の基本原理について、多面的・多角的に考察できた。 ・基本的人権の尊重について様々な視点から考察できた。 ・平和主義について、憲法、日本や世界の情勢などをふまえて多面的・多角的に考察し、自分の考えをきちんと述べることができた。 a　b　c	・憲法前文や3つの基本原理、国の政治のしくみに関する条文を的確に読みとることができた。 ・統計やグラフ、文献資料を適切に活用できた。またそれと同時に、必要な情報を的確に、かつ総合的に読みとれた。 ・新聞記事等から、自分の興味・関心に合わせてニュースを収集できた。 a　b　c	・憲法の3つの基本原理を中心にして、憲法の大まかな内容を理解している。 ・基本的人権の内容を理解して、現代社会や自分の身の回りにある具体的な例を適切に用いて説明できる。 ・平和主義の内容に関連して、日本や世界の大まかな歴史や情勢を理解している。 a　b　c
現代の民主政治と社会 ①現代の民主政治 ②国の政治のしくみ ③地方の政治と自治	・国の政治（国会、内閣、裁判所）に関して、興味・関心を持てた。 ・実際の政治の様子などに関して積極的に発言し、自分の生活に結びつけてとらえようとした。 ・公民として民主的な政治のあり方や政治参加について意欲的に考えた。 ・地方公共団体の政治に対して、興味・関心を持てた。 a　b　c	・国の政治のしくみに関する根本的な理由を、自分の頭できちんと考えることができた。 ・議会制民主主義や選挙の意義、裁判制度について多面的に考察し、様々な立場や考え方から公正に判断できた。 ・現代の政治がかかえている問題を把握し、主権者としてそれらに対する自分なりの意見をまとめることができた。 a　b　c	・国の政治のしくみに関する条文を的確に読みとることができた。 ・統計やグラフ、文献資料を適切に活用できた。またそれと同時に、必要な情報を的確に、かつ総合的に読みとれた。 ・裁判員制度について自らの疑問点をあげ、新聞資料から必要な情報を的確に選んで答えられた。 a　b　c	・民主主義のあり方やしくみの基本的なことがら（国会・内閣・裁判所に関する基本的なことがら）を理解し、自分のことばで説明できる。 ・国民の政治参加の大切さ、裁判における人権尊重等について理解している。 ・地方自治の基本的な考え方としくみを理解している。 a　b　c
私たちのくらしと経済 ①私たちの生活と経済 ②市場経済と金融 ③国民生活と福祉	・個人や企業の経済活動、社会の経済ニュースなどに関心を持ち、身近な事例から自分の生活に結びつけてとらえられた。 ・財政や景気の問題など、経済上のさまざまな問題に興味・関心を持てた。 a　b　c	・個人と社会とのかかわりを、経済の視点から多面的に考えることができた。 ・社会における企業の役割と社会的責任、国や地方公共団体の経済的役割について多面的に考察し、さまざまな立場から公正に判断できた。 a　b　c	・社会のさまざまな経済活動に関する情報を新聞から収集し、学習内容と結びつけて適切に読みとり、またそれに関する自分の意見等をまとめることができた。 ・統計やグラフ、文献資料等を適切に活用できた。それと同時に、必要な情報を的確に、かつ総合的に読みとり答えることができた。 a　b　c	・経済活動のしくみ、市場経済の基本的な考え方、金融のはたらきなどの基本的なことがらを理解し、自分のことばで説明できる。 ・消費者保護、社会保障の充実、租税の意義と財政の役割について、基本的なことがらを理解している。 a　b　c
地球社会と私たち ①国際問題と地球市民 ②国際協力を考える	・国際社会の抱えている問題に対する関心を高め、それらを解決するための方法などを積極的に考えた。 ・国際協力に関するアクティビティや外部講師との活動などに意欲的に取り組むことを通じて、国際協力にむけて努力し、考えていこうとする姿勢が見られた。 a　b　c	・国際社会の諸問題について多面的・多角的に考察し、それらの解決方法をさまざまな立場から公正に判断できた。 ・国際社会における日本の役割やあり方について、状況を多角的にとらえ、自分なりに考察できた。 a　b　c	・国際協力に関するアクティビティの結果を、国際社会の諸問題の現状とつなげながら考えることができた。 ・統計やグラフ、文献資料等を適切に活用できた。それと同時に、必要な情報を的確に、かつ総合的に読みとり答えることができた。 a　b　c	・人口と食料問題、資源エネルギーと環境問題、南北問題など、国際社会のさまざまな課題の基本的なことがらを理解している。 ・さまざまな国際問題を解決しようとする人々や団体の努力を理解し、国際協力の基本的なことがらについて自分のことばで説明できる。 a　b　c

この評価表からもわかるとおり，「社会的思考・判断」の項目では，各単元の中心的な学習課

題に関して「多面的・多角的に考察し，様々な立場や考え方をふまえて公正に判断し，自分なりの意見を述べることができる」ことを観点としている。このような観点で思考・判断を評価するための前提として，実際の学習指導においては，現代の社会的事象に関する学習課題を設定し，それを多面的・多角的に考察する場や方法を提供し，生徒自身に判断する機会を与えることが必要になってくる。生徒に対して「○○について，あなたはどう思うか。」といきなり問うだけでは不十分なのである。

2.「社会的な思考・判断」の評価の場面と方法

思考力・判断力のような学ぶ能力の質的な面を評価する場合，様々な場面で評価方法を工夫しながら行い，それらを総合させてみていくことが必要になる。評価方法としては，授業観察や発言の内容分析，定期テスト内の思考・判断に関わる問題の解答分析なども行ったが，実際の評価において最も重視したのは，「生徒の考えを記述させたレポート」と「定期テストでの自由記述問題」である。

生徒たちは，学習過程の実に様々なときに，あれこれ自由に考えたり自分なりに判断したりしているだろう。それが授業中の発言となって表れることもあれば，ノートにメモするという形で表現されることもある。また，定期テストでできるだけ思考力・判断力をみる問題を工夫して作成することも必要であろう。例えば，授業で取り上げなかった資料等を使った問題に対して，各生徒がどのように思考したり，判断したりするかをみることもできる。[注4)]

しかし，目標と指導と評価の一体化を踏まえた場合，指導計画の中に思考・判断をさせる場面をきちんと位置づけ，どの生徒にもそれらの学習活動を行わせることが，思考力・判断力の育成という視点では欠かせないと考える。実際の評価において「レポート」や「定期テストでの自由記述問題」を最重視した理由はそこにある。

では，「レポート」や「定期テストでの自由記述問題」が指導内容との関連でどのように位置づけられていたかを次に述べ，生徒たちに多面的・多角的に考察する場や方法，公正に判断する機会をどのように提供したかをふり返る。

3. レポート

レポートといっても，調べ学習のような大作を指すのではなく，授業で取り上げている内容に関して「自分自身はどのような考えを持つのかを意識させ，それを自分自身の言葉で表現させる」ことをねらいとして書かせたものである（「作文」といってもいいかもしれない）。各単元の学習内容に合わせて，生徒にぜひ自分自身で考えたり意志決定したりしてほしいテーマを設定し，レポートを書かせた。設定したテーマの主なものとしては，「日本の平和主義を考える」「裁判員制度を考える」「経済に関する新聞記事を読もう」「国際協力を考える」などがあるが，ここでは「日本の平和主義を考える」と「国際協力を考える」に関して述べることにする。

(1)　「平和主義を考える」の指導計画とレポートの位置づけ

1．戦争放棄（1時間）

憲法前文および第9条を読み，憲法の基本原則の1つである「平和主義」の内容について考え理解させた。その際，歴史的分野での学習内容を復習したり，『あたらしい憲法のはなし』を資料として使用した。そして最後に，クラス全体で「戦争のよい点*)，悪い点」をまず出させた上で，各自に「自分は戦争を（よい・悪い）と考える。その理由」を書かせて提出させた。

*)「戦争のよい点」という表現は誤解を生じるおそれがあるだろう。授業でもその点については配慮し，「なぜ戦争をするのだろうか。戦争をする側の理由をここではよい点としてあげてみよう。」と発問した。

2．自衛隊の存在（1時間）

自衛隊誕生50周年であることを踏まえて，その誕生の歴史的背景，軍隊に匹敵する自衛隊に対する政府の見解の変遷等について説明した。

3．最近問題になっていることがら（1時間）

「(1)自衛隊の海外派遣問題と国際平和協力」「(2)日本の常任理事国入りとそれにともなう憲法改正問題」「(3)日本国内の米軍基地の問題」の3つのことがらを，新聞記事や資料集を使って説明し，世界情勢との関わりというより広い視野から日本国憲法の平和主義について考えさせた。

4．核兵器の拡散（1時間）

「世界は核の縮小にすすんでいるか」というタイトルを掲げた後で，1996年の包括的核実験禁止条約に至るまでの歴史をＶＴＲで視聴させたり，日本の非核三原則や最近の核保有疑惑にまつわる話題を盛り込んで説明した。なお，歴史的分野の学習での広島・長崎への原爆投下の内容も簡単に復習した。

5．レポート「日本の平和主義を考える」

1～4のような授業をした後で，生徒たちに出したレポートのテーマが「日本の平和主義を考える」である（**資料Ⅱ**参照)。「日本の平和主義」については，単に憲法の条文を理解するだけではなく，歴史的背景や時代の変化をふまえながら，国際的な視野で様々な問題点を考察することが大切である。それらを授業できちんと扱い多面的・多角的に思考する下地を作った上で，生徒たち自身に自分の考えをまとめさせたいと思い，指導計画の最後にレポートを位置づけた。

また，レポートの最初にまず「平和主義」の授業で取り上げた内容で一番関心をもったことがらを聞いているのは，生徒たち自身に「平和主義」の学習で取り上げた様々なことがらをもう一度確認させるためである。「平和主義」の様々な授業内容を今一度概観させた上で，再度「授業で取り上げた内容をふまえて」という前置きをつけて，平和主義に関する自分自身の考えを述べさせた。

資料Ⅱ

2004年度　社会科　　**＜日本の平和主義を考える＞**

1）「平和主義」の授業で取り上げた内容で、あなたが一番関心をもったことはどんなことですか。また、それはなぜですか。

2）授業で取り上げた内容をふまえて、「日本国憲法における平和主義」について、あなたの考えを述べなさい。

3年（　　）組　氏名（　　）

資料Ⅲ

2004 年度社会科　**「国際協力を考える」**

国際協力推進協会・今井恵理さんによる授業について

1）アクティビティ「大陸ごとに分かれてみよう！」

①あなたが選んだ国は、どの大陸に属していましたか？　○をつけてください。

北アメリカ　南アメリカ　アジア　ヨーロッパ　アフリカ

②実際にひもで囲んでみて、どんなことを感じたり、考えたりしましたか？

気付いたりしたことを、できるだけたくさん書きましょう。

2）アクティビティ「世界の富の分配」

①あなたは、どのグループに属しましたか？　○をつけてください。

豊かなグループ　貧しいグループ　中間層グループ

②実際に自分に分配されたジュースを飲みながら、どんなことを感じたり、考えたりしましたか？　気付いたりしたことを、できるだけたくさん書きましょう。

3）フィリピンへの日本のＯＤＡについての今井さんのお話しを聞いたり、写真を見たりして、自分が考えたことを書きましょう。

4）今回の授業をしてみて、「国際協力」に関するあなたの考えを書いてください。

3年（　　）組（　　）番　名前（　　）

(2)「地球社会と私たち」の指導計画とレポートの位置づけ

公民的分野の最後の単元である「地球（国際）社会と私たち」では，人口と食糧問題，資源エネルギーと環境問題，南北問題などといった国際社会における様々な問題を，生徒たちが自分自身も生活する地球（国際）社会のこととしてとらえさせることから学習を始めた。その上で，国際的な諸問題について多面的・多角的に考察し，自分たち自身のこととしてそれらの解決方法を公正に判断できるような学習構成を組み立てた。

1．国際問題に目をむけるとは（2時間）

まず最初に，自分自身が最も関心・興味のある国際問題を一つあげさせ，その理由も書かせた。また，それと同時に，シエラレオネというアフリカの国では平均寿命が世界一短いことだけを伝え，その理由を予測させた。

その後で，ＨＮＫで2003年１月に放送された番組「63億人の地図」の中の，シエラレオネの部分を視聴させ，「シエラレオネで平均寿命が低い理由を知ったあと，どんなことが大切，必要だと考えるか，できるだけ色々な視点から考えよう」という課題を出して，それぞれの考えを書かせた。ここでねらいとしたことは，「今までの知識やイメージで決めつけるのではなく，それぞれの現地の実情を確かめることが大切だ」ということと，「自分ができることを１つの側面だけでなく，できるだけ様々な面から考える必要がある」ということである。生徒たちが書いたり発言したことを，クラス全体にも紹介して様々な意見を共有させた。

2．様々な国際協力（2時間）

現在行われている様々な形の国際協力を紹介した。ただし，それらが他人事ではなく，生徒自身も関われる内容である点を強調しながら説明した。例えば，「国連の様々な機関による活動」ではユニセフや国連食料機関の例を，「ＮＧＯ」「ＯＤＡ」「自分たちにできる国際協力」ではフリーザチルドレンの例などを取りあげた。

3．南北問題（2時間）

人口と食糧問題，そして地球温暖化防止のための京都議定書関連のことがらを，南北問題という視点から扱った。京都議定書に関しては，2005年２月の発効という事実に絡めながら，自分たち自身ができること，すべきことは何かないかという視点で，ＶＴＲ視聴や新聞記事を使って２度にわたって考察を深めさせた。

4．ジレンマカード（1時間）

『地球のみかた　地球について学ぶカリキュラム』で紹介されているアクティビティ「環境倫理　ジレンマカード」から６枚のカードを選択してプリントを作成した。[注5)]

授業では，まず６枚それぞれのカードに対する自分自身の考えを記入させ，その後，グループになって各自どんな考えを書いたか出し合わせた。様々な立場や価値観の違いを考慮しながらどのような判断をすべきかを考えさせるアクティビティであるが，いろいろな考え方があることを知る上で有効であった。

ジレンマカードの例

ジレンマカード

あなたは地域で影響力をもつ人物の1人です。仕事から家に帰る途中、過度に自動車排気ガスを出したことであなたは警官に呼び止められました。あなたは：

・失点のチケットを無効にするために自分の権力を使いますか？
・その自動車を事情の分からない人に売却しますか？
・法律を変えるために動きますか？
・失点チケットに対して罰金を支払い、車を修理しますか？
・その他（とすれば何ですか？）

ジレンマカード

あなたの大好きな昼食場所はポリスチレン食物容器を使い続けています。あなたは大気の中にポリスチレンの生産が温暖化ガス（この場合CFCs）を排出することを知っています。CFCは大気の保護のオゾン層を破壊して、そして地球温暖化に作用しています。あなたは：

・そのカフェにおいて食物を買うのをやめる？
・環境にとって安全な容器に変えるようマネージャーと話をする？
・何もしない？
・その他（とすれば何ですか？）

5．外部講師による授業（1時間）

国際協力推進協会の今井恵理さんの協力を得て実現できた授業である。授業の前に筆者が「国際協力プラザ」を訪ねて直接話し合ったり，メールや電話で打ち合わせをしたりして，実際の授業では２つのアクティビティとフィリピンでの日本のＯＤＡに関する実況報告をしていただいた。２つのアクティビティのうち，特に「世界の富の分配」では，「豊かな国のグループ」「貧しい国のグループ」「中間層グループ」それぞれに分配されたジュースの量の違いが，世界における貧富の格差の現実を端的に目に見える形で生徒たちに突きつける結果となり，南北問題を実感できる効果があった。また，民間モニターに同行してフィリピンのＯＤＡを視察されてきた今井さんのお話と写真は，国際協力のあり方についての具体的な説明となった。

6．レポート「国際協力を考える」

この単元では，地球規模の国際的諸問題について，単に多面的・多角的に考察するだけにとどまらず，自分たち自身のこととしてそれらの解決方法を公正に判断できることを目標としていた。そこで授業の中では，国際問題に関する社会的事象を多面的・多角的に扱うことはもちろんだが，それらを解決する方法を自分自身の問題として意識させること，そしてそれらの解決方法にも様々な立場や考え方があることをきちんと押さえておくことが重要であると考えた。１～５までの授業において，国際問題を自分のこととして捉えさせ，それらの問題の解決方法としての「国際協力」を様々な立場や考え方をふまえて考

察させた上で，「国際協力とはどうあるべきか」を自分なりに判断させるために書かせたのが，レポート「国際協力を考える」である（**資料Ⅲ**参照)。

実際のレポートでは，５の外部講師による授業で行ったアクティビティに関する記述を求めた部分もある。ただしこれは，アクティビティをやってみての単なる感想を書かせるというより，アクティビティの内容と現実の世界とをどれだけ結びつけて考察できたかをみるためであった。また，「国際協力に関するあなたの考えを書きなさい」の部分では，それまでの授業で取り上げた国際的な諸問題をふまえながら，それらを解決する方法としての国際協力はどのようであるべきかを自分なりに様々に考察し，よりよい国際協力のあり方を述べている記述が多かった。

７．持続可能な開発（１時間）

中学校での社会科の最後の授業として，「持続可能な開発（sustainable Development）を取り上げ，はなむけの言葉とした。現在の様々な問題に取り組むことは，未来に続く課題であること，その未来を担うのは生徒たち一人ひとりであることを伝えたかったからである。

４．定期テストにおける自由記述問題

本校は二期制を採用しているため，定期テストは年間４回実施する。筆者はその定期テストに必ず自由記述問題を設定してきた（３年間続けると，生徒個人の成長の過程をうかがい知れる資料ともなる)。授業等で学習した内容に関係する社会問題やこれからの課題に対して，様々な立場や考え方をふまえつつ，自分自身の考えをきちんと述べることができるようになることをねらっている。

自由記述問題は，テーマと必要字数をあらかじめ生徒に提示（公開）しておく。必要字数は200字前後の場合が多く，配点は５～６点である。あらかじめテーマ等を提示しておくことで，テスト前に自分の考えをまとめてくる生徒が多い。その記述内容を読むと，生徒たちが自分自身の思考を何度となく推敲している様子がうかがえる。

2004年度に出題したテーマは以下の通りである。

① 「核全廃論」と「核抑止論」ではあなたはどちらを支持しますか。理由をきちんとつけて，150字ぐらいで述べなさい。

② 今，日本には死刑制度があります。あなたは死刑制度は続けるべきだと考えますか。それとも廃止すべきだと考えますか。必ずどちらかの立場をとり，その理由を，「資料集p. 56～57」にのっている様々な資料の内容をふまえて述べなさい。(200字程度)

③ 今，日本では「投票率の低下」が問題になっています。なぜ，投票（選挙）に行く人が少なくなっているのかその理由もふまえながら，また投票率が下がると何が問題なのかも考えながら，「投票率の低下」に対してどうすべきか，あなた自身の考えを述べなさ

い。その時，あと約５年後にはあなた自身も有権者になる（選挙権をもつ）ということもきちんと意識して，自分の考えを述べなさい。(200字程度)

④　現在の日本の財政は，歳入の約半分しか税金で集められず，その不足分を借金でまかなっています。このような財政問題について，今後どのような対策をすべきだと思いますか。理由もつけて，あなた自身の考えを200字程度で述べなさい。

①～④については，それぞれ次のようなことをねらって設定した。

①は，上述の「平和主義を考える」に関連している。ただ，レポートの「日本の平和主義を考える」が平和主義について多面的・多角的に考察した上で自分自身の考えをまとめることに力点をおいていたのに対し，①の自由記述は，そこからさらに自らの判断を要求したものである。

②は，人が人を裁く裁判制度について，授業で扱った内容や指定した資料の読み取りをふまえて，様々な立場や考え方から公正に自らの判断を述べさせたものである。

③では，３つの視点からの考察が求められていた。即ち，なぜ現在投票率が低下しているのか，なぜ投票率の低下は問題なのか，投票率の低下という問題を解決するためには何が必要か，である。この３つの視点から，学習した「民主主義」「国民主権」「基本的人権（参政権）」それぞれの意義をとらえ直すとともに，将来の有権者である自分自身の問題としてどれだけ真剣に意識できるかがポイントであった。

④は，国の財政を取り巻く様々な問題に対して，どれだけ総合的な考えを持てるかをみるために設定したものである。増税や歳出の工夫といった対策を的確に述べることはもとより，景気や国債発行，少子高齢化が国の財政に及ぼす影響など，それまでの経済学習の内容をきちんとふまえることも要求している。

Ⅲ　「社会的な思考・判断」の評価の仕方に関する検討課題

生徒たちが実際に書いた「レポート」や「定期テストでの自由記述問題」を読むと，指導計画での位置づけや自由記述のねらいがうまく反映されており，前述の公民的分野の個人評価表一覧で示した「社会的な思考・判断」の項目で「おおむね満足(b)」や「十分満足(a)」という評価に結びつけることができた。

しかし，このように実際の評価において最重視した「レポート」「定期テストでの自由記述問題」を含めた「社会的な思考・判断」の評価の仕方に関しては，まだまだ検討していかなければいけない点がいくつかある。

1.「習熟の程度」という視点[注6)]

「レポート」を指導計画の中にきちんと位置づけたり，「定期テストでの自由記述問題」に学習内容をふまえたねらいを設定したりしたことは，多面的・多角的な考え方や自らの公正な判断力を身につけさせる，つまり「育成する」という視点からは，確かに一定の成果はあったと思う。しかし，「習熟させる」という視点から見直すと，どれだけ系統的な学習指導ができたかと反省させられる。

澁澤文隆氏は，「これまでの社会科では，“習熟の程度”といった視点が欠けていたため，実現状況を明確に描くことができず，そのため『思考・判断』や『資料活用』の観点に関する指導が場当たり的となり，学習が繰り返されている割りには質的な高まりがあまりみられず，その結果，４月当初と翌年の３月では，指導内容は変わっても，難易度の観点からみるとほとんど変わりがないといった状況がみられたりした。(アンダーラインは引用者による)」[注7)]と指摘している。

本稿で述べている2004年度の実践をふり返ると，単元ごとの指導内容における「思考・判断」の観点は重視したし，場当たり的な指導だったわけではない。「レポート」や「定期テストでの自由記述問題」における生徒たちの記述内容も次第に充実してきたことは事実である。しかし，計画的，継続的な学習の積み重ねだけでは不十分であり，公民的分野全体を通しての思考力・判断力の質的な高まりという視点から，もう少し評価方法を工夫する必要があるだろうと考える。

例えば，すべての単元とはいかないが，公民的分野全体を通していくつかの単元もしくは機会をとらえて「ディスカッション」等を行い，自分の考えや判断を他の生徒のものと比較したり戦わせてみたりする場面を作ってもいい。また，思考力や判断力の諸要素や種類を考慮しながら，それらを単元ごとに段階的に位置づけるような工夫も大切だろう。さらに，これまでの「レポート」は，その単元の学習内容に限定させすぎるきらいがあったが，単元が進むごとに学習活動が積み重ねられていることをより強く意識して，「レポート」のテーマや形式において難易度を高めるという工夫も大切だろう。

この難易度という観点は，次に述べる「一般的な評価基準表の作成」にも関係してくる。

2.「一般的な評価基準表（ルーブリック）」作成の必要性

先に**資料Ⅰ**として掲げた「公民的分野の個人評価表一覧」は，特定の単元ごとに対応させた単元別の評価表である。教師である筆者は「レポート」等を，この評価表にそって「レポート」ごとに基準を設け，評価を行った。しかし，これはあくまでも教師側の評価だけで終わっており，生徒たちを評価過程に参加させ，自己評価させたり，評価基準表の修正・改善に関わらせたりすることはなかった。

ここで重視したいのが，「子どもが適切な評価基準に基づいて自己評価を行うことができるように指導することが，子どもの学力を身につけさせる上では不可欠である。」[注8)]という指摘

である。生徒たち自身に，自分の「レポート」における「社会的な思考・判断」の観点を評価させることで，今の時点で自分は何ができていて何が不十分なのかを自己認識させ，そして次に何が必要なのかを意識した上で学習に取り組ませることができる。生徒自身による自己評価は，思考力・判断力の育成はもとより，それらの習熟，質的な高まりという意味でも大切であろう。

では，生徒たちに自己評価させるためには，どのような評価基準表を作成する必要があるだろうか。まず，生徒にもわかる言葉で表記して生徒にも使えるものであり，そして「どのような学習でも適用できる転移力の大きい」「同じ学習活動ならどの単元でも通用するような一般的な評価基準表」[注9)]である。

この「一般的な」ということが重要である。「子どもたちは，何度も同じ一般的評価基準表を使い，「十分満足」というレベルの学習物をモデルとして見せてもらうと，その評価基準表を内面化させ，自らの学びと評価を連動させていく」[注10)]という。つまり，単元ごとの限定した評価基準表ではなく，何度も同じ一般的な評価基準表（ルーブリック）を用いることで，単元を越えて一つの能力（例えば思考力や判断力）がどれだけ伸びたか，その習熟度を評価することが可能になるからである。

今後，すでに出されているレポートや小論文テストの一般的な評価基準表なども参考にしながら，「レポート」等のルーブリックを作成していきたいと考えている。また，ポートフォリオ評価法における検討会の手法などを手がかりに，ルーブリックの作成，および修正・改善といったところまで，生徒たちを評価過程に参加させられたらとも思う。

3．生徒のノートの評価

生徒が書いたノートの分析は，「思考・判断」の評価方法としてもしばしば取り入れられている。しかし，筆者は，「関心・意欲・態度」や「資料活用の技能・表現」等の観点別学習状況の評価にノートを活用してきたが，「思考・判断」の評価においてはあまり積極的にノートを使用してこなかった。

ただし，ノート指導に関しては，「自分のためのノート作り」を強調してきていることもあり，生徒たち自身によるノート作りの工夫（例えば，メモやイラスト，関連する新聞記事等の添付など）を奨励している。実際，生徒たちのノートを定期的にチェックすると，生徒それぞれの学習活動の様子がみてとれ，とても興味深い。生徒たち自身の工夫の内容や，ノートに表れた生徒の思考過程が読みとれる記述の分析など，今後はノートに関しても一般的な評価基準を検討していきたい。

Ⅳ　最後に

2004年度の３年生の最後の授業のあと，ある男子生徒が「先生の授業は考えることが多くて大変だったよ。」と言ってきたことが，今思い出しても強く印象に残っている。「憶えることが多くて」ではなく，「考えることが多くて」だったからである。しかも，不平不満を伝えにきたという表情には見えなかった。

社会科の教師としては，社会のことがらを多面的・多角的に考察し自分自身で公正に判断する力を身につけさせることをとりわけ重視しているが，生徒たちの方は思考したり判断したりする学習活動をどのように感じているのだろうか。

自分の頭でいろいろ考えたり，自分の意志を決定したりすることは，少なからず努力が必要である。また，多面的・多角的に考察したり，様々な立場や見方から公正に判断したりする力を身につけるためには，計画的な学習を積み重ねていくことも必要である。その意味では，思考力・判断力を働かせる学習活動において，生徒たち自身の学習意欲が大事になってくる。

生徒たちの学習意欲を高めるという場合，社会的事象の中からどのようなことがらを学習対象として選択するかも，もちろん大切である。しかし，もう一つ，どんな社会的事象であれ，それらを多面的・多角的に考察したり，自分なりに意志決定・価値判断したりすることそのものの意義（楽しさだけでなく，その必要性や重要性）を，生徒たち自身が認識することも必要であろう。即ち，自分が思考力・判断力を身につけていくこと自体の意義を見出せた生徒たちは，その後も自分を取り巻く社会のことがらに対して，自分自身で自立的に思考したり，判断したりしていくことができるだろう。そういう意味でも，本稿での考察結果を今後の学習指導に生かしつつ，生徒たちが積極的に思考力・判断力を働かせる授業をめざしたい。

注

1）『中学校社会科　どうする絶対評価～新しい評価の実践マニュアル～』（佐伯眞人・澁澤文隆・佐野金吾監修　東京法令出版　2002年）

2）「中学校で『思考・判断』を観点にした評価はどのようにするか」（宇野彰人　『新指導要録対応　新しい評価の実際　第２巻　教科学習における評価』p. 230　ぎょうせい2001年）

3）例えば，「歴史的分野観点別評価問題の作成」（小池公夫　千葉大学教育学部附属中学校研究紀要第25集　1994年）など

4）例として，次のような問題を作成した。

> あきお君が買った菓子の袋には，「本品生産工場では卵，落花生をふくむ製品を生産してます。」という文が書かれていた。この文は，ケネディ大統領による「消費者の４つの権利 」の中のどの権利と関係があると思うか。４つの権利の中から１つ選び，そしてその権利とどのように関係するのかも説明しなさい。

授業では「消費者の４つの権利」について学習したが，問題文中の菓子の袋の例は，授業中には全く扱わなかったものである。またこの例は，４つの権利のどれか１つにのみ当てはまるわけではなく，考え方によってはどの権利にも当てはまるため，生徒自身がどのような考えのもとどれを選んだか，判断力もみることができる。

5）ジレンマカードの作成では，『地球のみかた　地球について学ぶカリキュラム』（パメラ・バッサマン　アンドレア・ドイル共著　国際理解教育センター（ＥＲＩＣ）発行　1996年）のアクティビティ「環境倫理」156～159頁を参考にした。「このアクティビティは生徒たちに環境，人口や社会問題に関する自分の価値観や考え方を検証する機会を与えるものです。」とある。

6）「習熟の程度」という視点は，『新学力観に立つ社会科の授業改革』（澁澤文隆著　明治図書　1994年）の150～153頁から示唆を受けた。

7）同掲書151頁。

8）『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法　～新たな評価基準の創出に向けて～』（西岡加名恵著　図書文化社　2003年）55頁参照。ただし，この文は，ポートフォリオ評価法における教師と子どもの検討会の必要不可欠性と関連づけて述べられている。なお，子どもに自己評価のための評価基準表（ルーブリック）を作らせ自己評価を行わせることの重要性を指摘するものは，ポートフォリオ評価法をはじめとしてよく見られる。

9）「連載　学力低下はどんな授業で生み出されるのか⑩」（安藤輝次著　『社会科教育』明治図書　2005年１月号）111頁。

10）「連載　学力低下はどんな授業で生み出されるのか⑪」（安藤著　『社会科教育』明治図書　2005年２月号）111頁。

その他の参考文献

・『中学社会公民　課題解決力を育てる授業の設定』（高山博之・谷田部玲生編著　日本文教出版）
・『中学校　思考力・判断力　その考え方と指導と評価』（北尾倫彦編集　図書文化社　1995年）
・『21世紀　「社会科」への招待』（魚住忠久　山根栄次共編　学術図書出版社　2001年）
・『新中学校教育課程講座〈社会〉』（佐伯眞人／大杉昭英／澁澤文隆共著　ぎょうせい　2001年）
・『使える社会科ベーシック５　評価を生かした問題解決学習でめきめきつく確かな学力』（長谷川康男著　学事出版株式会社　2004年）
・『プロジェクトの評価の実践的手法　ＪＩＣＡ事業評価ガイドライン改訂版』（独立行政法人国際協力機構　企画・評価部評価管理室編　国際協力出版会　2004年）